



五葉の銀杏に日輪

# 東小つつしん

— 学校・家庭・地域のみんなで育む「東っ子」 —

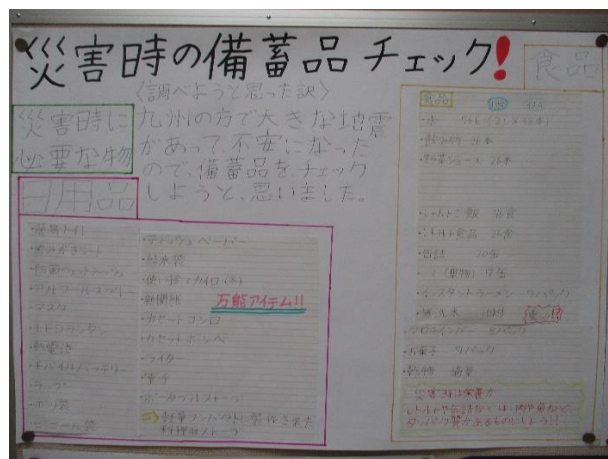
## 「災害」に学ぶこと

校長 小樋山 寿幸

各教室廊下には夏休みの力作が勢ぞろいしています。子どもたち一人一人の個性が輝く作品です。そうした中に「災害」をテーマとしたレポートがあります。

レポートの一つは、地震に遭遇したときの緊迫した状況下でのこと、その後再訪したときのことを「体験したそのひと」にしか分からない様々な思いをまとめています。

また、他のレポートは「災害時の備品について我が家にあるもの、足りないもの」「東日本大震災」について、災害を自分事としてとらえ、「では、どうしたらよいか」と考え、まとめていました。



8月下旬には東小学校区内で停電があり、大変苦慮したとのお話を伺いました。そのため、学区内のあるスーパーでは冷凍食品が一切なく、提供できないとの張り紙がされていたことを思い出します。また、台風や線状降水帯による水害関係のニュースも記憶に新しいところです。

さて、学校での避難訓練では、「訓練できちんとできないことは『いざというとき』もできない」こと、訓練や学習を通じて「(防災や対策に関する)知識と技」を身に着けるようにすること」を話しています。学校での防災学習に関する取組が、子どもたち自ら命を守ることに役立つようにしていきたいものです。ただし、防災学習の知識と技では対応しきれない未曾有の災害もあることはすでにご承知のとおりです。

そこで、家庭や地域ぐるみで防災意識や災害対策に関する知識と技を身に着けることも大切になってきます。今月末に開催される災害対策訓練もそうした学びの機会となります。地域ぐるみで「自助・共助・公助」という考えと災害対策の知識と技を身に着ける場となることを願っています。